

正 誤 表

「シンプル生化学（改訂第7版 第4刷）」

下記の箇所に誤りがございました。謹んでお詫びし訂正いたします。

頁	該当箇所	誤	正
166	図11・3	[以下に差し替え] 図 11・3 アシル CoA のミトコンドリア内への輸送 CPT-I：カルニチンパルミトイルトランスフェラーゼ I CPT-II：カルニチンパルミトイルトランスフェラーゼ II CACT：カルニチン-アシルカルニチントランスロカーゼ	
194	6～9 行目（[注]）	[以下に差し替え] [注] 多くのほ乳類におけるトレオニンの代謝経路は上述のようである。ただし、ヒトにおいて、トレオニンアルドラーゼおよびトレオニンデヒドラターゼの活性はきわめて低いため、トレオニン代謝の主経路は、トレオニンデヒドロゲナーゼにより2-アミノ-3-ケト酪酸が生じ、その後プロピオニルCoA、スクシニルCoAとなりクエン酸回路に入っていく経路と考えられる（図12・3）。	
214	↑2～↑1 行目	チミジル酸シンテターゼ thymidylate synthetase	チミジル酸シンターゼ thymidylate synthase
215	図 13・5 説明文 1 行目	チミジル酸シンテターゼ	チミジル酸シンターゼ
	↑4 行目	チミジル酸シンテターゼ	チミジル酸シンターゼ

2025 年 8 月 19 日
株式会社南江堂